

不言実行館 ACTIVE PLAZA 徹底説明！

特集



「学生が自ら考え、学生同士が対話で刺激し合い、新たに気づき、行動を起こす」

いま、大学に求められているのは、このような学生主体の教育プログラムです。

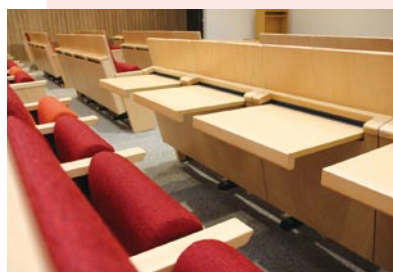
今春完成した「不言実行館 ACTIVE PLAZA」は、学生が自ら学び、人間力を高めるための施設。

学生が能動的に学ぶ姿勢を培う場としてスタートしました。



1F アクティブホール

講演会、シンポジウム、
各種セミナーなどを開催できる多目的ホール。
学内行事のほか、さまざまな報告会や
発表の場としても利用されています。



テーブルが収納式のため、メモを取りながらの聴講に便利です。

座席	324席
ステージサイズ	約4m×8m
メインスクリーン	200inchワイド

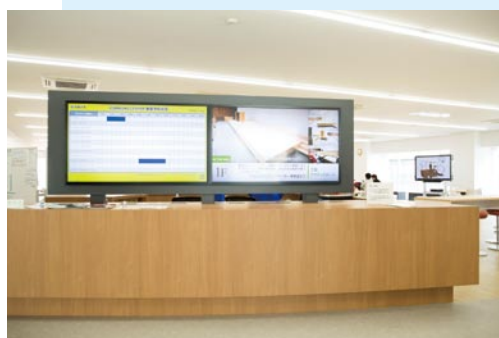


2F

新たな出会いが、
新たな学びを生んでいく。

「学生交流の場」 スチューデント・commons

最大300名を収容できる開放的空間が広がり、
少人数から多人数まで、
フレキシブルかつアクティブに利用できるフロアです。



受付カウンター

入口を入るとすぐにあるのが受付カウンター。commonsサポーターが常駐し、利用についての相談、commons内での各種行事の案内などを行っています。また、ブースの予約や機器の貸し出しの手続きもここでを行います。入口前のモニターでは、3階のプレゼンテーションルームやグループスタディブースなどの予約状況を確認できます。

電子書籍が インストールされた ノートPCを 貸し出しています。



commonsセンターには、2階と3階で利用できるノートパソコン(大学後援会寄贈)が各フロアに20台ずつあります。これらのノートパソコンには電子書籍(中部大学幸友会※寄贈)がインストールされています。

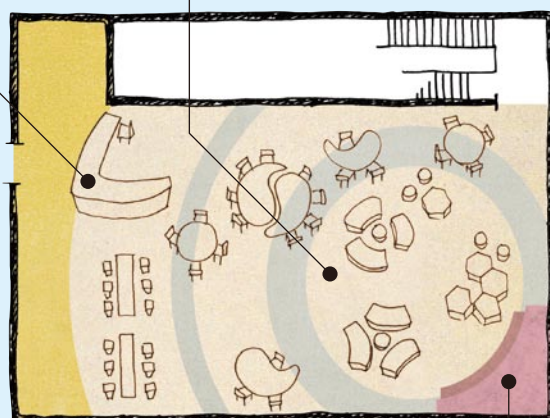
主な電子書籍

- 美しく撮るスマホフォトテクニック
- 日本語の技法 —読む・書く・話す・聞く・4つの力—
- 肩と肘のスポーツ障害 —診断と治療のテクニック—
- サッカーの見方は1日で変えられる
- スポーツ・マネジメント入門 —24のキーワードで理解する—第2版
- 大学生学びのハンドブック —勉強法がよくわかる!—改訂版
- 面接担当者の質問の意図[16] (内定獲得のメソッド)
- 仕事力を身に付ける20のステップ
- 共生社会の実現 —少子高齢化と社会保障改革—
- はじめての経営学 —日本を代表する経営学者による読上ビジネススクール—
- グローバルキャリア —ユニークな自分の見つけ方—
- 問題解決をはかるハーバード流交渉戦 etc.

※中部大学幸友会：詳細はP.16をご覧ください。

コミュニケーションエリア

学生同士の新たな出会いや交流を生むオープンな空間。このエリアで人間力とコミュニケーション能力の向上を目指します。人数や目的に合わせ、テーブルとチェアを自由に組み替えて利用できます。



ステージエリア

プレゼンテーションやイベントに利用できるステージ。大型スクリーンを活用すれば、発表の内容や演出の幅を広げることがも。コミュニケーションエリアに向け、より多くの仲間呼びかけることができるエリアです。



3F

学びを深め、伝え合う力を高めていく。

ラーニング・コモンズ 「グループワーク& プレゼンテーションの場」

レポート作成などの自習のほか、グループワーク&ディスカッション、学生主体のゼミ活動やプレゼンテーションなどに利用できるフロアです。



クワイエットルーム

テスト勉強や資格取得のための学修、論文・レポートの作成、電子書籍を読むなど、一人で集中したいときにおすすめの場所。ラーニングエリアとは程よく離れているため静かで、自然光が入る明るい空間です。



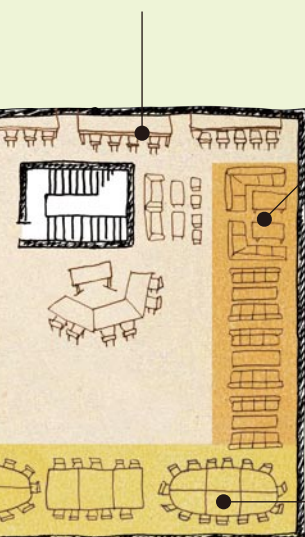
アクティブボックス

長時間のミーティングでも疲れにくいソファ仕様仕様のボックスシートです。テレビモニターやホワイトボードが設置されているため、みんなのアイデアや意見をまとめていくのにも便利。ファミレス風のソファもあり、リラックスしながら打ち合わせができます。



グループスタディブース

グループワークやディスカッション、打ち合わせなどにぴったりのスペース。ホワイトボード、プロジェクターも活用できます。ブースは大きく3カ所に分かれており、20名程度の打ち合わせが可能です。





こまだ ましき
駒田 芳揮さん
応用生物学部 環境生物科学科4年

学生が主体となって活動できる点です。新たな交友関係も増えました。利用した学生からいろいろな意見を聞き、課題に対する解決策を考えています。学生の要望に、同じ学生目線で応えていけるのも学生が運営している利点だと思います。

私の
オススメ

プロジェクトがあるブース。
講義室を借りることなく
身近な場所で使えて便利です！

ズバリ聞きました！ 「コモンズサポーターの魅力は？」

「学生の学生による学生のためのサポート」の提供を目指すコモンズサポーターの皆さん。
現在23名が活躍中ですが、
その中から3名のサポーターに聞きました。
コモンズサポーターの魅力はどこですか？

はじめまして。
私たちが
コモンズサポーターです！



仲間との情報交換はもちろん、新たな人間関係が生まれたことです。先生や職員の方との関わりも増え、社会に出たときに必要なマナーや協調性、責任感など、これからでも伸ばせる力があると感じています。

私の
オススメ

最新機器が揃っていること。
新しい発見やコミュニケーションが
増えると思います！



おおき ちほ
大脇 千穂さん
現代教育学部 幼児教育学科4年

他学科の学生や先輩との関わりが増えたことです。また、新しくできたばかりの施設ですから、仕組みやルール、手順などをつくっていくのも自分たちです。そうした仲間と一緒に模索しながら物事を決めていけるところが魅力です。

私の
オススメ

2階の壁一面のホワイトボードスペース。
教え合いの場所には最適です！



すずき ゆうすけ
鈴木 雄祐さん
応用生物学部 環境生物科学科3年

Close Up!

まず、やってみる。
いま学生に必要なのは「経験」です。

学生にとって気軽に話しに来られる窓口を目指しています。いま学生に必要なのは経験。まずやってみることです。大人が口出しせずに自主性にまかせて見守る。そういう点では、コモンズセンターは自主性を育む場所。このコンセプトに共感していただけたら、ぜひ利用をおすすめください。

コモンズコンシェルジュ 岩間 優希先生



受付カウンター

2階のチューデント・コモンズの受付と同様の機能を持つ3階受付カウンター。2階と違うのは、カウンター横にコンシェルジュデスクがあること。コンシェルジュの先生に勉強方法や勉強などについて相談することができます。



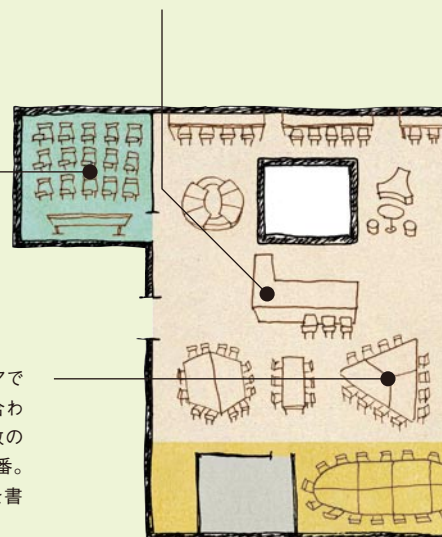
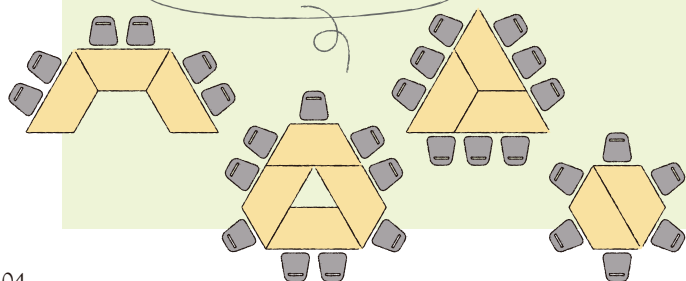
プレゼンテーションルーム

学生が企画したイベントの開催やクラブ活動の発表などに利用できる、ガラスで仕切られたクロズドタイプのスペースです。20人程度の収容が可能です。プレゼンテーションの練習の場として、一人で使用することもできます。

ラーニングエリア

一人でもグループでも利用できる多目的学修エリアです。テーブルとチェアは可動式で、人数や用途に合わせて自由に組み替えることができます。また、多人数の活発な話し合いには、電子黒板「BIG PAD」の出番。データを読み込ませて資料を表示させたり、文字を書き込みながら意見交換も可能です。

組み合わせ方次第で、
いろいろな机の配置が可能です。



4F

学生支援課 教務支援課

1号館1階から移転し、
スペースを拡大した「学生支援課」と「教務支援課」。
学生生活や成績、単位取得に関することなど、
学生のさまざまな相談に応えています。



広くて白いカウンターは、曲線を基調としたデザイン。明るくやさしい雰囲気で学生も訪れやすくなりました。

証明書自動発行機

通学証明書や成績証明書、駐車場使用登録申請書などの各種証明書の発行はここでを行います。自動発行機は3台あり、5階のキャリア支援課にも1台設置しています。

マナカなどの交通系カードが利用できるようになりました。



オープンスペースにテーブルと椅子が多数設置されているため、書類提出の際には、落ち着いて書くことができます。



新たな雰囲気が魅力です。
これまでの学食にはない
全国の大学で中部大学が初出店。

アロハテーブル (カフェテリア)

ワイキキに本店を構える
ハワイアン・カフェ・ダイニング
「アロハテーブル」は、



5F

キャリア支援課

就職活動全般に関する窓口は、単に就職指導をするだけでなく、「生き方」と「働くこと」について、じっくり考えてもらうための場となるよう、教職員が一体となって学生を支えています。

受付カウンター

「就職活動を何から始めたらよいかわからない」、「業界や職種への適性を知りたい」、「Uターンを希望している」など、何か相談事や知りたいことがあれば、まずは受付へ。

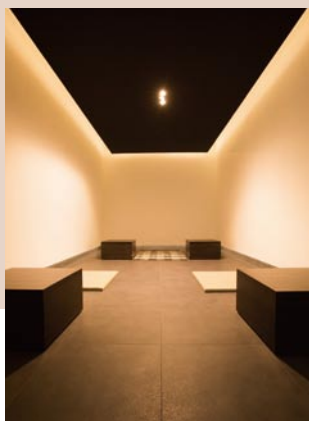


仕切られた6つの個別の相談ブースと完全個室の応接室が2部屋あります。フロア中央では、豊富な求人情報や就職関連の資料を椅子に座って閲覧することができます。



クリエイティブ・ラボ

透明なガラスで仕切られたクローズドタイプのスペース。模擬面接を行ったり、学生を対象にした企業による説明会や講演会を開催したりと、多用途に活用できる場所です。



メディテーションルーム

5階の入口をすぐ右へ進むと「メディテーションルーム」があります。メディテーションとは、「瞑想」の意味。そう、ここは、自分の心と向き合うための場所。心が疲れたとき、心を鎮めたいとき、心を整えるための部屋なのです。



気候や天気の良い日は外のテラス席がおすすめ。春日井から名古屋の街並みが一望できます。

学生自らの力で 育て、創る、 共有スペース。

コモンズサポーター(学生) が運営

学生で構成されるコモンズサポーターは、現在23名。管理・運営、カウンター業務等、センターに関わる業務のすべてを学生が行います。実社会に出る前に就業経験を積み、「仕事とは何か」「社会とは何か」「責任」について学びます。

正課の授業では使いません

コモンズセンターは、学生が自ら学び、自主的に活動する拠点。つまり授業を行う施設ではありません。もちろん、食事や休憩をする場所でもありません。学生が自由に集い、自由な発想で使用できる、いわば学生みんなの「居間」のような場所です。

学びに必要な設備が充実

コモンズセンターは、全域で無線LANを利用可能。TVモニターや壁面に大型ホワイトボードが設置されたコーナー、大型スクリーンが使用可能なエリアもあり、多様な学修に対応しています。ノートパソコン、プロジェクターなどの貸し出しもしています。

学生が自ら学び、人間力を高め、
あてになる人間として成長することを期待。

「人間力」はなかなか一人で磨くことはできません。知識の習得は一人でもできますが、人間力はいろいろな人と多種多様な活動を行っていく中で、自分を表現しながら身につけていくものです。私たち教員の役割は、その活動を側面的に支援していくことであり、決して強制するものではありません。オープンして3カ月、まだ学生の利用率はそれほど高くはありませんが、利用率の高さを目指すよりも、全員が満足して気持ち良く使ってもらうことが理想です。私たちは学生に、学部・学科・学年を越えた付き合いを自ら生み出してほしいと願い、そうした活動に学生たちが真剣に取り組む姿を、保護者の皆様にはぜひ見ていただきたいと思います。不言実行館は今、学生の相互交流と社会人、職業人への成長を促す学びの場としてスタートしました。ここでの学びや活動を通して、学生が建学の精神「不言実行、あてになる人間」として、大きく成長することを期待しています。

Message | 不言実行館 館長
山田 公夫先生



コモンズコンシェルジュ(教職員) がサポート

学生のやる気や要望、相談に応じて、学生の主体性を尊重しながらアドバイスやヒントを提供するのがコモンズコンシェルジュ。それを受けて行動するのは学生の皆さんです。コンシェルジュはあくまでサポート役として支援します。

人に学び、 解決する相互交流の場

人と人が出会い、時間や空間を共有して交わることで、互いに知恵や知識を得て、人に学んでいく。そんな相互交流によって、新しい発想や仲間が生まれ、自分のやりたいことや課題、解決法が見えてきます。

多くの人に開かれた 施設づくり

中部大学第一高等学校や春日丘高等学校・中学校の生徒の皆さんをはじめ、幸友会、同窓会、卒業生の皆様など、地域や企業の方に広く活用していただくことを目指した施設。今後はさまざまな企画を立てて、情報を発信していく予定です。

コモンズセンター(1～3階)は、
「自学力(自ら学ぶ力)」と
「人間力(自ら考え生きる力)」を備えた
「あてになる人間」として、
社会で活躍するための活動の場です。

Message | コモンズセンター センター長
伊藤 守弘先生



コモンズサポーター発案による イベントの企画・立案・実施を目指して。

コモンズセンターは、これまでの本学にはなかった新しいコンセプトの施設です。学びの場であるけれど、授業では使わない。その意味を学生たちは理解してくれるか当初心配しましたが、杞憂に終わりました。サークルやゼミでの自主的な集まりや、授業でわからないことがあれば学生同士が集まって使う。最近では、サークルのミーティングやTOEICの勉強会、公務員試験の勉強、プレゼンの練習などに使う学生たちの姿が見られました。また、このセンターの最も特徴的な点は、“コモンズサポーター”と呼ばれる学生がセンターを運営・管理している点です。サポーターとしての意識を高めるため、完成する3カ月前から研修を実施。今では第一段階としての業務は習得しました。ただ、今後さらなるバージョンアップを図るためには、サポーター自らが発信していく力も欠かせません。そのためにも、企画力や交渉力などを身につけられるよう人材育成に力を入れていきます。

子どもたちが 自主性を育めるよう 良き相談相手に。



中部大学後援会会長
さとう かずひこ
佐藤 一彦

平素は後援会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本会活動の中でも特に「父母との集い」におきましては、先生方のご配慮と熱心なご指導を受けることができました。今年度も大学および地方会場での開催を予定していますので、多数のご参加をお待ちしております。さて、皆様のお子様の中にはインターシップ等のプログラムを体験されている方もいらっしゃるでしょう。

ぜひ「働く意義、仕事を知る、将来を考える」を、親子間で話し合っていたいただきたいと思います。親と子が将来に向けて勉学や就職を語る。まさに「あてになる人間」の育成の一環と考えます。また、理想とすべき親のあり方として、子どもの自主性を重んじ、本人が積極的なことを進んで行うことができる周辺環境の整備が大切です。

この自主性は子ども自身にとつて、人生を生きていく上での大変重要な考え方であり心構えです。親として学生たちをしっかりと支え、良き相談相手になつていただきたいと思います。

平成26年度は中部大学開学50年の記念すべき年でした。各種イベントに出席させていただきましたが、開学以来の歴史の重みを感じるとともに、明日への躍動感を体感いたしました。平成27年度は、後援会事業として中部大学の将来へ向けて、新規に修学サポート、学生相談支援、環境整備等の学生生活支援、さらに不言実行館内コモンスセンターへの支援も行つていきます。どうか皆さまの一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

変化の時代に 正しく力強く適応できる 力を育てたい。



中部大学長
やました おきつぐ
山下 興亜先生

後援会の皆さまには、日頃より多大なるご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度、本学の就職率は98・8%でした。4年前から、数字の追求だけではなく質的にどう確かなものにするか、自分に合った職をいかに見つけるかを考えて教育改革を進めてきました。その効果が表れた結果だと思えますが、教育の効果はそう簡単に評価できるものではありません。最初に就いた職で少なくとも10年間は辛抱を重ね、ひと回り大きくなっていくことが大学での進路指導、キャリア教育の成果だと思っています。

また、いまは変化の時代です。社会、経済、政治も含め、これほど激動の時代を私自身も経験したことがあります。学生には、この変化の時代を生きる力を身につけてもらいたいと考え

ています。最先端の知識と技能の習得はもちろんですが、それ以上に変化に正しく力強く適応できる力を育てることが重要だと思っています。そうした力は授業だけでなく、課外活動はじめ友人や先生との交流を通して身につけていくものです。後援会の皆さまにも寄付を賜り、不言実行館が4月に完成いたしました。これまで大学は、講義や実習・実験の場として建物をつくってきました。しかし不言実行館は正課の授業では使いません。学生の自主的で主体的な活動・活躍の場として提供しています。こうした環境の充実には、保護者の皆さまのご支援が不可欠です。これからも引き続き、大学の学外教授としてお子様の人間力を育成していただくとともに、仕事人として成長できるようご指導、ご支援をお願い申し上げます。